



第1回 大垣市高校生 アメリカ合衆国 オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣



平成28年10月14日～10月22日

平成28年度フレンドリーシティ交流事業

第1回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市・ユージーン市研修派遣事業

団員名簿(五十音順)

派遣期間:平成28年10月14日(金)～10月22日(土)【9日間】

No.	役名	氏 名	性別	学校名 役職名 もしくは 学年
1	団長	いしがみ まさゆき 石神 政幸	男	岐阜県立大垣北高等学校学校 教頭
2	総務	あんど う まりえ 安藤 万莉英	女	岐阜県立大垣北高等学校学校 教諭
3	総務	よしやす みえ 吉安 三恵	女	(公財)大垣国際交流協会 職員
4	団員	かわせ さくら 川瀬 咲来	女	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年
5	団員	きだ ありさ 木田 有紗	女	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年
6	団員	きむら りこ 木村 莉子	女	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年
7	団員	こやす さよ 子安 紗世	女	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年
8	団員	すみ たくや 鷺見 拓哉	男	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年
9	団員	とよだ もえ 豊田 萌	女	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年
10	団員	はしもと ゆきな 橋本 侑奈	女	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年
11	団員	みのうら しょうや 箕浦 将也	男	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年
12	団員	やまと たけあき 山戸 文明	男	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年
13	団員	ゆい かなこ 由井 香菜子	女	岐阜県立大垣北高等学校学校 2年

第1回 大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市研修派遣 日程表

●派遣期間:平成28年10月14日(金)～10月22日(土)

●派遣人数:13人(引率3人、高校生10人)

	月 日	現地時間	交通機関	日 程	
1	10月14日 (金)	9:45	デルタ航空(DL622)	JR大垣駅集合 大垣駅(JR東海道線)⇒名古屋駅(新幹線)⇒品川駅 (成田エクスプレス)⇒成田空港駅 成田国際空港発(ポートランド行き、DL622) ----日付変更線----	移動
		16:25 ----- 9:30 11:00-15:30		ポートランド国際空港着 ビーバートン市見学プログラム 11:00-11:30 ビーバートン市役所表敬訪問 13:00-14:00 ビーバートン市警察 14:30-15:30 ナイキワールド(ナイキ本社) ビーバートン市を出発し、ユージーン市へ移動 サウスユージーン高校にてホストファミリーと対面 対面後、各家庭へ 【ホームステイ①(ユージーン)】	ビーバートン市
2	10月15日 (土)	終日		各ホストファミリーと1日過ごす 【ホームステイ②(ユージーン)】	ユージーン市
3	10月16日 (日)	終日		各ホストファミリーと1日過ごす 【ホームステイ③(ユージーン)】	
4	10月17日 (月)	7:30頃 17:00		ホストファミリーの送り(各学校へ) 【高校生】学校訪問(サウスユージーン高校、チャーチル高校、 ノースユージーン高校の3校に分かれる) ◇内容:授業参加、校内見学 【引率者】ユージーン市役所表敬訪問、学校訪問 ホストファミリーの迎え(各学校まで) 【ホームステイ④(ユージーン)】	
5	10月18日 (火)	7:30頃 17:00		ホストファミリーの送り(各学校へ) 【高校生】学校訪問(サウスユージーン高校、チャーチル高校、 ノースユージーン高校の3校に分かれる) ◇内容:日本語クラス参加(プレゼンテーション、生徒との交流) 【引率者】学校訪問 ホストファミリーの迎え(各学校まで) 【ホームステイ⑤(ユージーン)】	ビーバートン市とその周辺市
6	10月19日 (水)	7:40 8:00 10:00-13:00 14:00-16:00 17:30 18:00	チャーターバス	サウスユージーン高校集合(ホストファミリー送り) ビーバートン市へ向け出発 ジョージフォックス大学訪問 ◇内容:キャンパス見学、授業見学 ワシントンスクエアモール ホテルチェックイン ホームパーティー(オレゴン異文化交流協会メンバー宅にて) 【ホテル泊①(ビーバートン)】	
7	10月20日 (木)	8:00 18:00		ホテル出発 オレゴン自然景観見学 ◇訪問先:コロンビア峡谷、マルトノマ滝、マウントフッド ビーバートン市到着 【ホテル泊②(ビーバートン)】	
8	10月21日 (金)	9:00 9:45 12:45	デルタ航空(DL623)	ホテルを出発し、空港へ ポートランド国際空港着 ポートランド国際空港発(成田行き、DL623) 【機内泊】	移動
9	10月22日 (土)	15:15 20:30		成田国際空港着 成田空港駅(成田エクスプレス)⇒東京駅(新幹線) ⇒名古屋駅(JR東海道線)⇒大垣駅 JR大垣駅解散	

大垣市のグローバルな未来に触れて

岐阜県立大垣北高等学校 教頭 石神 政幸

1 フレンドリーシティの発展

ポートランド国際空港着陸後、ハリケーンが近づく暴風雨の中、私たちはビーバートン市役所へと向かいました。ドイル市長はとても気さくな方で、生徒たちを温かく迎えてくださいました。小川敏大垣市長と日比利雄大垣国際交流協会理事長からお預かりした親書を手渡しました。4日目には、ユージーン市のピアシー市長にお会いしました。生徒たちは各ホストスクールで



ピアシー市長と親書の交換

交流をしていたため、引率者だけの訪問となりました。ピアシー市長にも親書を手渡しました。ピアシー市長からはオレゴン州の人口増加による教室不足など、教育に関する課題も伺いました。両市長とも、フレンドリーシティとしての大垣市との交流発展に大きな期待を寄せていただきました。

2 グローバルな人材育成を見据えて ―国際バカロレア(IB)―

大垣北高校は、平成26年度に文部科学省から5年間のスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定や、今年度県教育委員会から3年間の国際バカロレア導入検討校の支援をいただいています。今回この海外派遣事業のお話しを大垣北高校にいただいたのは、このようなグローバル教育を展開していることも理由の1つであると思います。そこで、折角米国を訪問するのであれば、現地のIB校をぜひ見学したいとお願いしました。今回お世話になるホストスクールの内2つの高校(Churchill HS, North Eugene HS)にIBのコースが設けられており、IBの授業や施設を見学する機会を与えていただきました。アメリカでは母国語の英語で授業を行うことができるので、外国語で行わなければならない日本と異なり、ハードルは高くないと思いますが、海外の大学進学を視野に入れている点では、生徒たちにグローバルな感覚がすでに培われているような気がしました。IBコースを受講している生徒たちと話をすると、しっかりした話し方や物おじしない態度、将来への志の高さ等、彼らのグローバルマインドの高さに感心しました。今回のIB校訪問は、今後の大垣北高校でのグローバル教育に大変参考になりました。子供たちにグローバル人材としての資質、能力を育成することの大切さを再確認しました。

3 大垣市の限りない可能性

1日目のビーバートン市役所訪問の後、市内にあるナイキの本社を見学しました。そこはナイキ・ワールド・キャンパスと呼ばれ、広大な敷地の中にバスケットコートやウェイトトレーニングルーム、さらにはロッククライミングルームまで完備された建物やサッカー場や陸上トラック等があり、2018年には更に拡張し320万平方フィート(アクアウォーク大垣の約4倍)の広さとなるそうです。世界展開をし

ているナイキは、地域にも経済的な潤いをもたらしています。ユージーン市内にあるオレゴン大学にはナイキから多額の寄付が贈られています。またナイキは地域に多くの雇用も生み出しています。



ナイキ本社の入り口にて

す。また、すでに日本文化とも言えるアニメがあります。今年度は「ルドルフとイッパイアッテナ」では岐阜市が登場しました。「君の名は。」では飛騨市が舞台となりました。「聲の形」では、大垣市の馴染みの風景が描かれています。(ちなみに、本校出身の朝井リョウさん原作の「何者」も今年度映画化されました。)聖地巡礼なる現象も起き、多大な経済効果を生み出しました。

ブランド力という点でも、大垣市とビーバートン市、ユージーン市とのフレンドリーシティ交流は大きな意味があると思います。子供たちが彼らの豊かな発想とグローバルな視点から、今後更に大垣市のブランド力を高め、世界へと発信してくれることを期待しています。

4 最後に ―大垣市の未来と子供たちへの期待―

大垣市民の皆様、小川市長様をはじめとして、大垣市役所の皆様、大垣国際交流協会の皆様、吉安様、Wingの皆様、OIAの小沢様とそのメンバーの皆様(特にホストファミリーの皆様)、皆様方のご支援のおかげで、素晴らしい体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

今回は大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市・ユージーン市研修派遣事業の第1回目ということで、団長としての責任も重大でしたが、子供たちも頑張って、現地の高校生やホストファミリーとの交流し、様々な思いを抱いて日本に帰ってきたようです。とりあえずは、成功することができたのではないかと感じております。本報告書の中で、子供たちのたくましい奮闘ぶりをご覧いただけましたら幸いです。

将来、この10名の生徒たちが、大垣市の、あるいは岐阜県の、日本のリーダーとなって、世界に羽ばたき活躍してくれることを願っています。そのときが、本当の意味での、この事業の成功であろうと思っています。大垣市の未来と子供たちの無限の可能性に触れるができ、本当に楽しい研修でした。ありがとうございました。

大垣市にも海外展開している企業がたくさんあります。そして多くの雇用も生み出しています。大垣市には、グローバルな視野をもって世界を相手に事業展開する地盤があるように思えます。将来子供たちが大垣市に新たなブランドを立ち上げ、ナイキのような世界展開する会社を起業することも夢ではないでしょう。

岐阜県や大垣市にはブランドになるものがたくさんあります。例えば歴史や自然がありま



ビーバートン市役所にて

第1回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州 ビーバートン市・ユージーン市研修を終えて

岐阜県立大垣北高等学校 教諭 安藤 万莉英

平成28年10月14日(金)午前9時45分、2年生10名、そして私たち引率者3名を含む13名の一団が、JR大垣駅から記念すべき1回目となるオレゴン州海外研修へ旅立ちました。在来線でJR名古屋駅へ行き、新幹線と成田エクスプレスを乗り継ぐこと4時間、成田国際空港へたどり着きました。さらにそこからポートランド国際空港まで約10時間の空の旅となりました。



到着したのは現地時間の14日午前8時半頃(日本時間15日午前3時半頃)でした。この時オレゴン州には嵐が近づいており、着陸直前に飛行機の右翼に落雷するなどひやりした場面もありました。出国手続きや税関での手続きも飛行機での長旅に疲れた私たちには骨の折れる作業で、空港の外に出るまでは緊張の連続でした。

今回の研修は大垣市の事業として立ち上げ1回目で、全員がイメージのつかない中手探りで事前研修を行ってきました。事前研修ではユージーン市の高校で発表するプレゼンテーションを練習したり、今回訪問するオレゴン州やユージーン市、ビーバートン市について事前に調べ物をしたりしました。あいにく10月5日に開催されるはずだった出発式は台風のため中止になりましたが、10月に入ってからあっという間に研修が近づいてきたように思いました。

出発したときは興奮と、期待と、不安とで満ち溢れていた生徒も、14日をもう1度繰り返しビーバートン市の訪問を終えた一日の終わりにはさすがに疲れた表情でした。さらに、そこから土日と学校訪問の2日間を含む4日間一緒に行動しないことを思うと引率者一同は不安に駆られました。サウスユージーン高校の駐車場でホームステイ先のホストマザーやホストファーザーに会ったときの彼らの表情は安堵と不安が入り混じっていたように思われます。冷たい雨の夕方に、引率者と生徒は別行動を開始しました。

17日月曜日から2日間でユージーン市にあるノースユージーン高校、チャーチル高校、サウスユージーン高校の視察に向かいました。それぞれの高校の生徒の家に分かれて大垣北高生がホームステイしていたのです。18日火曜日には、大垣北高生が高校の日本語教室に参加し、プレゼンテーションをしている様子を見学できました。内心私は緊張していました。日本にいるときは部活動や勉強で手一杯のあの10人が、現地の高校生の前で上手くプレゼンテーションできるのだろうか。実際、緊張はしていましたがアメリカ人高校生や日本語教室の先生の質問に一生懸命に答える姿にほっと胸を撫で下ろしました。同時に、プレゼンテーションのスキルを磨いていけば、ただの会話でなく伝えたいことを世界中に誰にでも効果的に伝えられ、理解しあえるのだと痛感しました。

ビーバートン市の市長表敬、警察訪問、ナイキを見学した1日目から数えて5日目に、生徒と引率者が合流しました。生徒同士も久しぶりに顔を合わせたので喜びと興奮の朝になりました。そこからの2日間はジョージフォックス大学訪問をしたり、アメリカの自然に触れて最終日を過ごしました。

アメリカを離れる21日（金）の朝は想像よりも早くやってきました。現地でお世話になった小澤先生、OIAの皆さん、運転手の方などにお別れを告げる度に寂しさが増していったのを覚えています。日本に到着したときに感じたのはまずは湿気でした。大垣駅に到着したときは迎いの保護者の方々や大垣国際交流協会、大垣市役所の皆様のお顔を拝見したときには、全員が元気で帰ってこられて本当に良かったと感じました。

今回の研修を通して、参加した生徒が得られたものは非常に大きかったと思います。ホームステイ先での暖かい交流、日本とは違うシステムで成り立っている高校での体験など、多くのものを吸収して帰ってくることができました。10月26日（水）の大垣市役所での帰国報告で生徒が口々に、「これからに生かしたい」「これからの生徒もこのような機会で成長してもらいたい」と言っていたのを聞いて、今回の研修の成果の一片を垣間見た気がしました。

最後に、今回の研修に際してご理解とご支援をいただいた大垣市、大垣国際交流協会、WING、OIA、保護者の皆様、校長先生をはじめとする本校職員、および現地でご協力いただきました小澤先生はじめ皆様に心より感謝申し上げます。



オレゴンの人々と自然に触れた9日間

公益財団法人大垣国際交流協会 吉安 三恵

オレゴン州は11月に雨季に入り毎日のように雨が降りどんよりした天気になるが、それまでは温暖で美しい秋を堪能できると聞いていました。しかし、出発直前に天気予報を見ると、私たちの滞在中は毎日雨で嵐が来るとの予報。そんな中での出発でした。時々晴れ間もありましたが、予報どおり毎日雨が降り、天候に恵まれたとは言えない9日間でしたが、第1回目の大垣からの派遣団を温かく迎えてくださったオレゴンの人々と過ごし、かけがえのない体験をした忘れられない9日間でした。

生徒は、ユージーン市内の日本語クラスのある3校のいずれかに通う高校生のいる家庭で5泊のホームステイをし、ホストシスター/ブラザーと共に高校で丸2日間を過ごしました。私たち引率者は、2日間に分けて3校を順番に訪問しましたが、どの学校も自由な雰囲気というのが第一印象でした。

制服はなく自由な服装で、通学手段においては、徒歩、親の送迎、バス、また車で通学する人（オレゴン州では16歳以上が免許取得可）もいるなど、自分の責任において選択肢が多くあることを感じました。授業の内容なども多様性があると感じました。例えば科目の選択においても、外国語の授業は学校によって選択肢は違うもののスペイン語、ドイツ語、フランス語、日本語など複数から選択できる、また進学を目指す人はより多くの授業コマを取っている、授業の選択は大学のように、毎日1時間目から5時間目までびっしりあるのではなく、人によっては、月曜日の午後は授業がないなど、日本の高校との違いを多く発見しました。また、授業中は、生徒が発言をすることが多く、授業を聞くのではなく、授業に参加するという雰囲気でした。



また、今回は、各学校の日本語クラスで「日本の学校生活」について英語でプレゼンテーションをするという大きな課題を持って、訪問をしました。最初は、緊張した様子の生徒たちでしたが、日本に興味があり発表に対して質問をしてくれるなど関心を持って聞いてくれるアメリカの高校生たちを前に堂々と発表をすることができました。質問に

も臆することなく英語で答えた生徒たちを見て、将来頼もしいと感じました。それは、アメリカの生徒も同じで、授業見学後は、生徒が学校内の見学に連れて行ってくれました。質問に対して的確に、そして将来のことを聞くと明確な自分の意思を持っていました。

5泊のホームステイが終わり、ユージーン市を出発する朝、どの家族も「我が家に来てくれて本当にありがとう。また会いましょう」と言って生徒たちとお別れをしている様子を見て、ホストファミリーの温かさとそれぞれの家庭で充実した時間を過ごしたことを感じました。初日、雨の中ホストファミリーと出会った時の楽しさと不安の入り混じった顔からは想像できないようなお別れになりました。週末の丸2日間を一緒に過ごすなど共に過ごした時間を思い出し、そして感謝の気持ちでお別れする生徒の涙を見て、私自身も胸が熱くなったことを覚えています。

今回の訪問では、ビーバートン市、ユージーン市の市長ともお会いし、お二人ともとてもフレンドリーな方で、第1回の訪問団の私たちを温かく歓迎してくださいました。また、ビーバートン警察署、ナイキ本社、ジョージフォックス大学など訪問先ではいずれも、予定していた滞在時間では足りないくらい、いろいろなことを紹介してくださいました。オレゴンで出会った人々からは、遠い日本から来た私たちにたくさんのものを見せてあげたいというおもてなしの心を感じました。



忙しくも充実した毎日で、あっという間の9日間でしたが、オレゴンの人々との交流、大学や企業訪問、自然との触れ合いなど貴重な経験ができ、そこから多くのことを感じ学びました。今回の経験を通して、生徒たちは広い視野を持つことができたように感じます。そして、生徒たちの交流の様子、そして物事に対して積極的に挑戦しようとする様子を目の当たりにして、これからの国際社会で生きていく彼らが、当事業の目的である「将来国際的に活躍できるグローバルリーダー」となってくれることを確信しています。

最後に、ビーバートン市、ユージーン市の皆さま、コーディネートをしてくださった小澤様はじめ、多くの方のお力をお借りして、記念すべき第1回目の訪問が無事に終わったことに、心より感謝申し上げます。そして、今回の訪問によりビーバートン市、ユージーン市との絆がより一層強くなり、末永い交流の始まりになることを願っています。



Oregon の思い出



【ビーバートン市】

岐阜県立大垣北高等学校 2年 由井 香菜子

オレゴンに到着して最初の日、ビーバートン市で研修を行った。

まず、ビーバートン市役所を訪問した。市役所はとても明るい雰囲気、デニー・ドイル市長が温かく迎えてくださった。市長は、とても気さくな方で、ビーバートン市について詳しく紹介していただき、面白い話をして、私たちの緊張を和らげてくださった。市長は、ビーバートン市にはナイキ本社やIT関連企業が立地しているのだと教えてくださり、後にナイキ本社の訪問を控えた私たちは、さらに期待が高まった。また、市長は全員にお土産のクッキーをくださり、最後には市長を囲んで、記念撮影を行うなど、とても楽しい市役所訪問だった。



その後、昼食を食べた。アメリカに来て初めての食事は、やっぱりハンバーガー！日本にも出店している「BURGER KING」というお店に入り、ハンバーガーを食べた。アメリカのハンバーガーはサイズがとても大きく、ドリンクも、アメリカのSサイズは日本のLサイズくらいあり、とても驚いた。ここでは、1人ひとりが店員さんに注文したが、この研修で初めて、1対1でアメリカ人と会話したので、少し緊張した。しかし、オレゴンでは、お店の店員をはじめとする皆さんが、本当に優しくて温かい人ばかりで、初対面の人でも、とてもフレンドリーに話しかけてくれ、そういう雰囲気がとてもいいなと感じた。

次に、ビーバートン市警察を訪問した。ここでは、警察官のラムさんが、警察の装備やライフルを見せてくださったり、施設内の案内をしてくださったりした。ラムさんは、以前日本に住んでみえたそうで、日本語が堪能だったので、難しい内容についても詳しく理解することができ、質問にも分かりやすく答えてくださった。施設内では、実際に使われている牢屋やオフィスも見学することができた。さらに、ラムさんが私たち全員に手錠をかけてしまい・・・！なかなかできない貴重な経験だった。

その次に、市長さんからお話をうかがっていた、ナイキ本社を訪問した。ビーバートン市は、世界的に知られているナイキが発祥した地であり、ナイキ本社には、ナイキの歴史や、各スポーツの製品などの展示があり、とても興味深かった。最初に、ナイキの歴史について、教わった。ナイキは、スタンフォード大学で経済学を学んでいたフィル・ナイトと、オレゴン大学の陸上コーチであったビル・バウワーマンによって設立された。靴底のデコボコはもともと、ワッフル焼き機を使って作られたということには、とても驚いた。その次に、各スポーツのエリアを案内していただいた。



バスケットボールのコーナーには、マイケル・ジョーダンが使っていたバスケットシューズのモデルが展示されており、とても興味深かった！その後、ナイキ本社のエリア内にある、日本庭園を見せていただいた。アメリカ人が日本の文化を好んで、取り入れてくれていると知り、とてもうれしくなったし、自分が生まれ育った日本はいい国だなあと、再度誇りに思った。

【ユージーン市、オレゴン大学について】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 子安 紗世

ユージーン市はオレゴン州のポートランドに次ぐ第二の都市である。木が多くて、大きな川もあり、自然がとても豊かであった。街道の両側に木が植えられており、10月に訪れたため、木が紅葉していて落ち葉もおちていて景色がとてもきれいだった。ユージーン市にはいくつかの小山があり、ホストマザーに聞くとところによると、山の上に行くにつれ高い家になるらしい。ちょうど10月でハロウィーンの時期であったので、たくさん家が飾り付けされていて日本との文化の違いが一番よく感じられた。都市部には二階建ての家もあったが、ユージーン市の多くの家やお店が平屋建てで庭が広がった。日本の家に比べて家と家の間が大きく、自然に囲まれているように感じた。私たちが研修した期間中ほとんど雨が降っていて、気温も日本の11月下旬くらいの寒さだった。もし晴れていたら海に行ったり、星を見させてくれたりする予定があったので、次もし行く機会があったら晴れる時期に行きたいと思った。そして、街やお店に行くと、みんな声をかけてくれ、自分が上手に聞き取れなかったり、話せなかったりすると、ゆっくり話してくれて「どこから来たの?」とか「何しに来たの?」と聞いてくれた。この研修期間中一度も現地の人々が怖いとか不安に思ったことがなかったくらい本当にみんな親切で、気遣いをしてくれるとても良い街だった。ユージーン市は自転車にやさしい街で、道路の両側に自転車専用のレーンがあり、自転車で出勤や通学している人もいた。オレゴン州には2つの大きなアメリカンフットボールのチームがあり、そのチームの洋服を着ている人や、ステッカーを車に貼っている人がたくさんいた。ショッピングモールなどに行くとチームのグッズを売っているお店があり、町全体がアメフトで盛り上がっていた。多くの自然と親切な人に囲まれたユージーン市はとても良い町であった。



ユージーン市には大きくて立派なオレゴン大学がある。とても多くのキャンパスがあり、緑も豊かで学習しやすそうな環境であった。私は、ホストマザーがオレゴン大学で教師をしていたので、大学の授業を受けさせてもらうことができた。10人くらいの生徒数でそのうち日本人が8人いる



クラスだった。先生はアメリカ人の先生で、授業は英語で行われていた。授業の内容は「黒人差別」についてで、先生が生徒に問いかける方式で、生徒は笑ったりしながら楽しそうに授業を受けていた。アメリカの高校に行ったときも思ったが、アメリカの学校はみんな積極的に発言をして、自分の考えをちゃんと持っていて、日本の受け身型の授業とは少し違うことが分かった。私が受けた授業は今北高がやっているSGHの内容に似ていた。国際的な問題を解決しようとする姿勢が海外でもあるということが分かり、よりいっそうSGHの授業にも力を入れていきたいと思った。そしてまた、日本人の方が海外で英語を使って、さまざまな国の人とコミュニケーションをとっている姿を見て、自分も海外で活躍してみたいと思えるよい経験になった。

【ノースユージーン高校】

岐阜県立大垣北高等学校 2年 木村 莉子

ノースユージーン高校では、午前中に3時間の授業を受け、午後に2時間の授業を受けた。どの授業もとてもアクティブで生徒主体の授業ばかりだった。生徒が居てこそ成り立つ授業だと感じた。日本では、先生の話を一方向的に聞くという授業が一般的なため、アメリカの授業はとても新鮮だった。また、どの生徒も積極的で分からないところがあるとすぐに手を挙げ先生に質問をしていた。そして、どの生徒が当てられても、自分が分かったところまででも、自分の意見を怖気づくことなく堂々とみんなの前で発表していた。このことは、私も含め多くの日本人が苦手とすることだと思うのですがいいと



思ったし、同時に見習っていきたいと思った。また、授業中に一人一台パソコンが配られたり、映画を資料とした授業が行われたりと、日本では受けることのない授業に驚かされた。音楽の授業では、日本のようにみんなで合唱をするのだと思って授業に臨んだので、大きな衝撃を受けた。それは、本格的な吹奏楽の授業だった。生徒がそれぞれ自分の弾ける楽器を持ち合わせて、ひとつの曲を奏でていた。日本にはない授業だったので、とても楽しく受けることができた。また、自分の能力を伸ばすことができる授業があるのは素敵だなと感じた。生徒同士でもお互いにカウントを取りあったり、音の強弱を教えあったりしていた。アメリカの学校は、選択制の授業で、同じ興味や夢を持った子が集まるので、お互いに高め合うことができ、授業に対する意欲がより湧いてくる素敵な方針だと思った。



日本語クラスでは、学校についてのプレゼンを行った。私たちの拙い英語をアメリカの生徒は興味津々に聞いてくれた。また、プレゼンの後には質問もしてくれてうれしかった。日本語クラスでの授業は、みんなで携帯を使って日本についてのことやアメリカにあるロゴのクイズ大会をした。日本についてのクイズは日本人の私たちにとっても難しく感じるものが多く、もっと自国について知らなくてはいけないと感じさせられた。また、ロゴのクイズでは、初めてみるものが多く分からなくて困っていると、「Red! Red!」と教えてくれ、みんなで楽しく協力しながら

らできた。また、日本と同じように授業は「気をつけ、礼」で始まり「気をつけ、礼」で終わる方針をとっていて、なんだか日本に戻ってきたように感じてうれしかった。

このように、ノースユージーン高校では、アメリカと日本の違いやそれぞれの良い点だけでなく、自分たちの授業に対する姿勢を見つめ直すことができた貴重な時間を過ごすことができた。



【チャーチル高校】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 木田 有紗

私は月曜日と火曜日にチャーチル高校へ行った。1 日目はホストシスターの Madi とともに行動をし、数学、日本語、経済、世界史の授業を受けた。数学は 2 次関数の移動、経済は需要供給についてで、日本でやった内容と似ていて理解することができた。

アメリカの授業は先生が一方向的に説明するというよりは生徒が積極的に質問をして問題を解いて、生徒主体の授業になっていた。日本でも授業中に質問するときはあるが、より質問がしやすい雰囲気があって、とてもリラックスして楽しく授業を受けることができた。また、経済と世界史の授業ではグループプロジェクトをやっていて、それぞれの課題に向かって研究を進めていて非常に立派に見えた。

施設の面でも、私の通っている大垣北高校とは違う部分が多くあった。図書室や美術室には生徒が自由に使えるコンピュータが多く置いてあったり、外にフットボール競技場やテニスコートがあったりして、とても充実していた。チャーチル高校は隣のサウスユージン高校と比べると規模は小さいが、敷地面積も広く、1 人 1 人の生徒が自分の目的を持って通えるような設備も整っている学校であると分かった。



その日、ホストシスターは 3 時間目がフリーピリオドという何も授業が入っていない時間があったため、お昼は外に食べにいった。日本はお弁当が原則だが、チャーチル高校では外に食べに行ったり、カフェテリアで買ったりなど、選択肢が多い。16 歳から自動車の免許を取得することができるため、チャーチル高校には運転できる生徒が多くいる。朝も自分で車を使って登校することができ、お昼も自分で外に出かけることができる。自由なことが多いが、その分生徒 1 人 1 人が責任を持って行動していて、自立していると感じた。



2 日目は 1 時間目から 4 時間目まで団員 4 人一緒に日本語クラスで授業を受けた。私たちが主にしたことは、大垣北高校についてのプレゼンをすることだった。私たちは原稿を持っていて、事前に練習してきていたが、実際に授業でやってみるとほとんど原稿どおりには進まなかった。日本語クラスの生徒と先生が私たちのプレゼンに興味を持ってくれて、写真の細かい説明や学校の校則などについて次々と質問を投げかけてくれたからである。

予想もしていなかった状況に戸惑いつつも、私たちの精一杯の英語で答えたら向こうの方たちもちゃんと理解してくれて嬉しかった。その後 4 回プレゼンを繰り返すうちに、だんだん細かい部分もアドリブで説明ができるようになった。テストで出るような英作文とは違い、このような場で臨機応変に対応できる力をもっとつけたいと改めて思った。

プレゼン以外には、日本語で挨拶の練習をしたり、英語で日本とアメリカの生活についてディスカッションしたりした。日本語クラスのみんなは、日本語も上手ですごく日本のことに興味を持ってくれていることが分かって嬉しく感じた。5 時間目には手作りのサンドイッチやスコーンなどをいただいた。そこでは 3 人の日本語クラスの人と交流することができた。チャーチル高校へ行って現地の同年代の高校生と交流をすることができたのは、とても大きな財産になったと思う。これからもお互いの国について学びあって、将来良い関係を築きたい。



【サウスユージーン高校】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 川瀬 咲来

サウスユージーン高校では、70 分間の授業に対し、5 分間の休み時間があります。午前中に 3 時間、午後から 2 時間と計 5 時間の授業を受けました。日本では 6 時間か 7 時間の授業を受けるのに、学校が終わる時間はそんなに変わらなくて、授業がすごく長く感じました。しかし、アメリカの高校生はすごく積極的に授業を受けていて、自主的に質問する子も多く、授業に活気があって素晴らしいと思いました。日本の高校では、先生の話静静地に聞きながら授業を受けるのが一般的で、なかなかわからないことがあっても聞くことができない子が多いと思います。だから、アメリカの学校の雰囲気はすごく新鮮で、同時にすごいと思いました。また、サウスユージーン高校では、1 時間目と 2 時間目の間に音楽が鳴ります。これも、日本ではないことだったので、1 日目はすごく驚きました。でも、朝はまだ頭が起きていなかったりするので、1 時間目が終わってから音楽が鳴ると気持ちがリフレッシュされるし、1 日頑張ろうという気持ちになっていいなと思いました。



さらに、サウスユージーン高校では、保育や調理などの授業がありました。私のホストシスターは保育系志望だったので、保育の授業を受けました。普段は教室での授業で、週に 2 回、学校に隣接している保育園での実習があるそうです。そこでは、まず最初に学校の周りを散歩して、散歩が終わると保育園に戻り、中にある遊具で遊びます。子供たちは好奇心旺盛で、散歩をしてもすぐにふらふらと歩いて行ってしまったり、喧嘩をし始めた

りと、監督の先生がいるわけでもないの、楽しいばかりではなくて大変な授業なんだなと思いました。でも、大変だけどここで頑張ることで、将来仕事に就いた時にここでの経験を生かして仕事ができるから素敵だと思いました。日本の高校では、普通科の高校にいる限り、基本的にはそんな経験はできません。だから、アメリカの高校がすごくうらやましかったです。でも、それはアメリカの高校生が高校の時から自分の将来に向かってそれなりに思い描いているものがあるということだと思います。すごいと思いました。高校の時から自分の夢に向かって頑張れる機会があるというのはとても素晴らしいことだし、日本でもそういう機会があると、もっと個性が出てきたり、頑張りやすくなったりすると思いました。

日本語クラスでは北高についてのプレゼンをしました。みんな日本の学校に興味を持って聞いてくれてうれしかったです。また、授業では、ゲーム感覚で日本語の文法について学んだりグループごとに文法を覚えるための歌を歌ったり、日本語の劇を観たりととても楽しかったです。貴重な経験ができてよかったです。



【ジョージフォックス大学】

岐阜県立大垣北高等学校 2年 豊田 萌

10月19日は、オレゴン州にあるジョージフォックス大学を訪問した。大学に到着してまず、最初に留学生センター長や教授の方のお話を聞くことができた。ここでジョージフォックス大学は、日本から留学している学生がいたり、オレゴン異文化交流会の会長が教授をしていたりと日本と交流がある学校だ、ということが分かった。またここでは、大垣北高校の教頭先生が私たちの高校である大垣北高校の紹介もしてくださり、日本の大学とアメリカの大学について少し意見交換をすることができた。



次に、キャンパスの敷地内を教授の方に案内してもらった。日本の大学と似ているような雰囲気であり学生がキャンパス内を行き来している風景も私が想像する日本の大学のイメージととてもよく似ていたが、ところどころにオレゴンの自然豊かな風景が見られる場所もあった。キャンパスの中心にはジョージフォックス大学のシンボルと呼ばれる大きな時計台があり、そのまわりでは、学生たちが友人と会話していたり、待ち合わせしていたりしていた。私たちの高校にも大きな時計台があって、大垣北高校のシンボルともいわれているので共通点だと思った。次に、実際に授業が行われている教室も見学させてもらった。そこでは、美術の授業が行われていた。ここで私は、美術に詳しいわけではない上に、すべての内容が英語で行われているので、まったく理解できないのではないかと少し不安だった。しかし、実際に授業が始まってみると、すべては理解できないものの、ところどころ理解できることがあった。また、教授の一方的な授業ではなく、学生もたまに発言したり質問したりしていて、高校訪問した時のように積極的な雰囲気の授業であった。この経験は改めて、将来留学をはじめとする海外での生活を意識する大きなきっかけとなった。大学進学や将来働く時、日本だけでなく、海外で学ぶことも一つの大きな選択肢なのではないかと改めて考えることができた。自分の興味に合わせて外国で学ぶということの大切さも改めて感じることもできた。それと同時にもっと英語力を向上させ、理解してコミュニケーションがとれるようになりたいという意欲へつなげることができた。

最後に、大学のカフェテリアで昼食をとった。ここでは大学の方が特別に私たちをもてなしてくださった。雰囲気は日本の大学の学食のようであったが、とても広く、さらにカフェテリアへ続く橋からの景色はとてもきれいで、オレゴンの自然の壮大さを改めて感じた。料理の種類も豊富で、おもにハンバーガーなどアメリカならではのものが多かった。



このジョージフォックス大学の訪問を通して、海外への興味を広げることができただけでなく自分の学力向上の意欲をより一層高めることができ、とても貴重な体験をすることができた。将来、海外で活躍してみたいという意欲を高めることができた。この訪問の経験をいかして、これからも英語の学習に励み、理解を一層深めていきたいと思った。

【ハロウィーン・パーティー】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 山戸 文明

ハロウィーンパーティーは現地でお世話になった小澤さんの友人の家で開かれた。その家に行つてまず驚いたのが、家全体がハロウィーンモードだったことだった。外にはマーベルのキャラクターの衣装を着た骸骨がたくさんいて、家の中には、血を流した骸骨やジャック・オ・ランタンが飾られていた。さすがアメリカだなと思った。日本ではハロウィーンはあまり盛大に祝うことはない。あるとすれば東京の大きな道路で仮装した特に若者たちがいかにも楽しめるはずのない混雑したところに行って大騒ぎするくらいである。それに比べてアメリカでは盛大に祝われていると感じた。

僕たちが行った家ではテーブルが優美に飾られていた。食事はさすがアメリカというか、いかにもハンバーガーを食べてくださいと言わんばかりのビュッフェの配置だった。その片隅には噴水型のチョコフォンデュが静かに置かれていた。イチゴにマシュマロ、さらに s'more をつくるためのクラッカーが並べられていた。s'more はかねてから食べたいと思っていたのでとてもおいしかった。食事では 10 人で楽しく食べた。食べているとき、家の人が、おいしいですか、などとても気遣ってくれた。そういえばレストランの店員やスーパーマーケットのレジの人はとてもフレンドリーでお客さんととても打ち解けていた。日本を否定するわけではないが、アメリカのお店のようにもっと硬くならず、お客さんと接してほしいと思った。話がそれたが、食事の後は家の人が用意してくれた、ミニチュアのカボチャに絵を描いた。最初何を描いていいかわからなかったの、僕の好きなナルト



トの絵を描いた。みんな描いたカボチャを並べると、こんなハロウィーンの形もあるんだなと思った。心残りがあるとすれば、飛行機の関係でこのカボチャを日本に持ち帰られないことだった。外は雨が降っていたが少しも気にならないほど、楽しい充実したひと時を過ごすことができた。最後に僕たちのためにパーティーを開いてくれた家の人に驚見くんが先陣を切ってみんなでお礼を言った。そのあとは家の人と記念撮影をして、日本からのプレゼントが贈られた。日本でもこのくらいとまでは言わないが、近所や友達とハロウィーンパーティーをしてみたいと思った。

アメリカではこのように家でパーティーを開いたり、ハロウィーンの日には学校に仮装をしてきたり、仮装して街に出て、子供たちは trick or treat を言ってお菓子をもらうそうだ。またショッピングモールの一角に大きなハロウィーン用のグッズが売っているコーナーがあった。ゾンビメイクから骸骨の衣装までユニークなものがたくさん売られていた。僕はゾンビメイクがずっと前からほしかったのでとても嬉しかった。

このようにアメリカの文化に触れて、日本とは違う文化だったけど居心地が悪いわけでもなく、とても楽しく過ごせた。そうは言っても、日本でも同じような催し物は行われているので、このことは同じことが他の文化に言えるかどうかは分からない。もしかしたらとても居心地が悪いかもしれない。それでもたくさんの異文化を経験してみたいと思った。



【マウントフッド、マルトノマ滝】

岐阜県立大垣北高等学校2年 箕浦 将也

僕たちは10月20日にマウントフッドやマルトノマ滝、コロンビア峡谷などの自然観光に行った。オレゴンでは自然が豊かだということはこれまでの事前研修やホームステイなどで感じてきたが、この日、改めて自然の豊かさを感じることができた。

山道を登ってはじめに休憩で寄った高台では、美しい山や川などを一面に眺めることができた。疲れも吹き飛ばすほどに綺麗な眺めだった。



次に行ったコロンビア峡谷、マルトノマ滝では、僕が思っていた以上に滝が大きく、迫力があつた。また、上の方へ登ると、さらに近くから滝を眺めることができた。1本橋になっていて、怖いと言っている子もいたが、とても立派で、自然の素晴らしさを感じた。

その後、ダムに行った。そこには、水流を使った魚を分ける施設のようなものもあり、その説明の施設もあった。少ししかいなかったのであまり細かいことは

分からなかったけれど、とにかくダムは大きかった。

お昼ご飯には、照り焼きチキンを食べた。久しぶりにちゃんとしたお米を食べて、とてもおいしかった。チキンも、味付けがとても美味しく、また、ボリュームたっぷりだったので、食べきるのが大変だった。食べ終わったあとに、サービスで焼き餃子とりんごをもらったので、みんなお腹いっぱいになっていた。

最後にマウントフッドに行った。とても高い山なので雪が積もっていた。久しぶりの雪に興奮ぎみの僕達だったが、外に出ると、あまりにも寒かったのでみんなすぐに室内に戻った。僕たち男子も、少し上の方まで登ろうと言って登ったが、少し行ったところであまり景色も変わらなかったの、諦めて室内に戻った。その日は天候が悪く、雨が降っていたので、もし降っていなければもう少し外を見て回れたのではないかと少し残念に思った。室内には、大きな暖炉があつたり、旅行者の宿泊用の施設があつたりした。僕達は暖炉のそばであつたまったり、お土産を見たりしていた。楽しい時間を過ごせた。



夕食は、イタリアンレストランで食べた。メニューが英語だったのでどんな料理かなかなかわからなかったけれど、みんなそれぞれの料理に満足していた。僕はカルボナーラスパゲッティを食べたが、とても美味しく、また食べたいと感じた。

この日だけで、僕達は約200kmというとても長い距離を移動したので、移動中、特に帰り道、みんな疲れた様子で、ほとんどみんな寝ていたが、目的地では、オレゴンの自然を目で見て、耳で聞いて、肌で感じるすることができた。オレゴンは本当に自然が豊かな地域で、自然と街が共生して一体化しているといった印象を受けた。また、次の日にはオレゴンから日本へ帰るということで、寂しい気持ちでいっぱいだった。オレゴン研修最終日にこのような美しい自然を見ることができてよかったと思う。この研修を通して、僕たちはたくさんのことを学ぶことができ、たくさんの刺激を得た。僕たちはこの経験を財産とし、これからの人生に活かしていきたい。